

雪あかりボランティアに参加して学んだこと



①人と人との繋がりによって完成される素敵なイベント

商大生、海外ボランティアのみなさん、地域の方々、
一般のボランティアの方々、観光客、、



②無くてはならないもの

小樽市民の想い

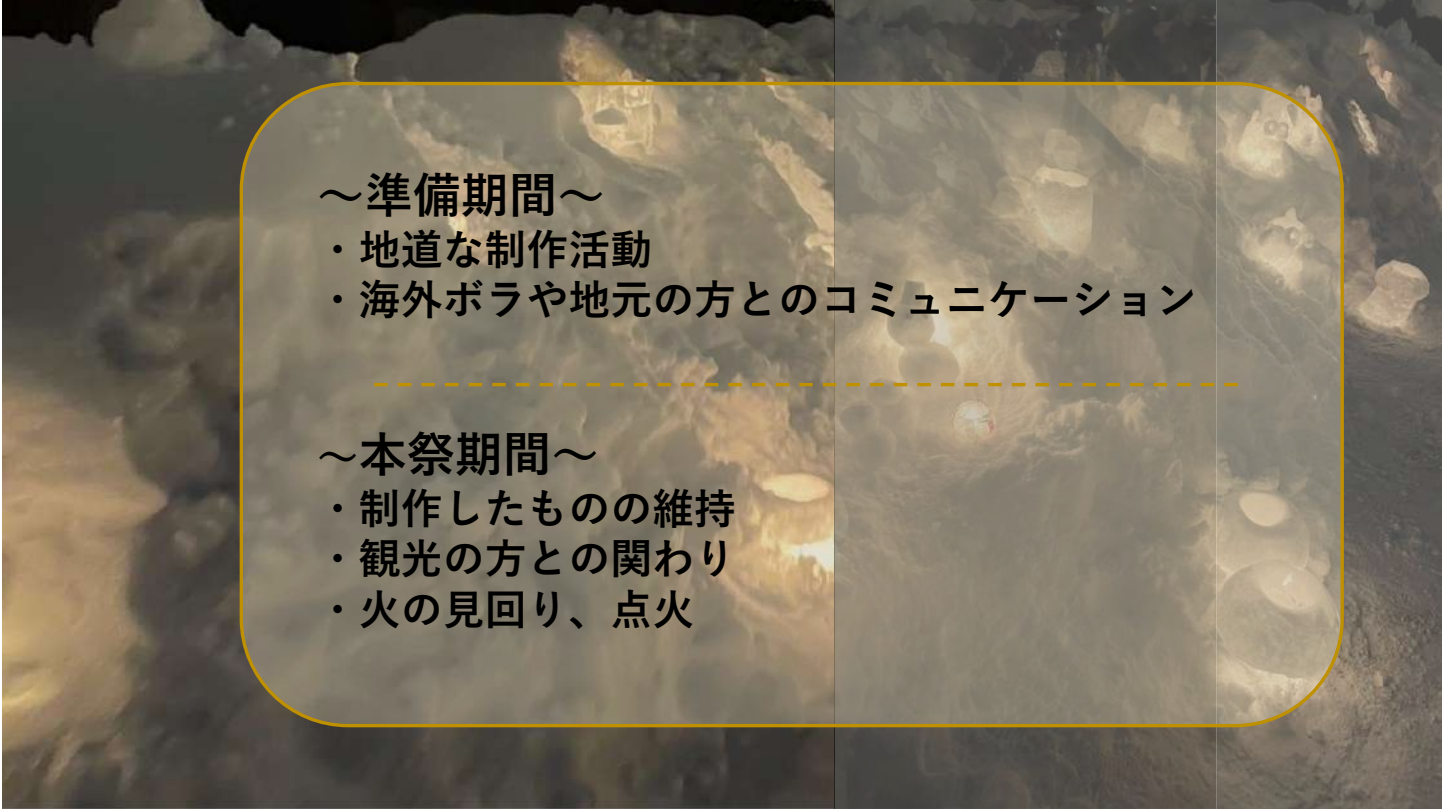
次の世代に繋いで欲しい

色んな人に知って欲しい

1人でも感動してくれる人がいることが大事



雪あかりの路

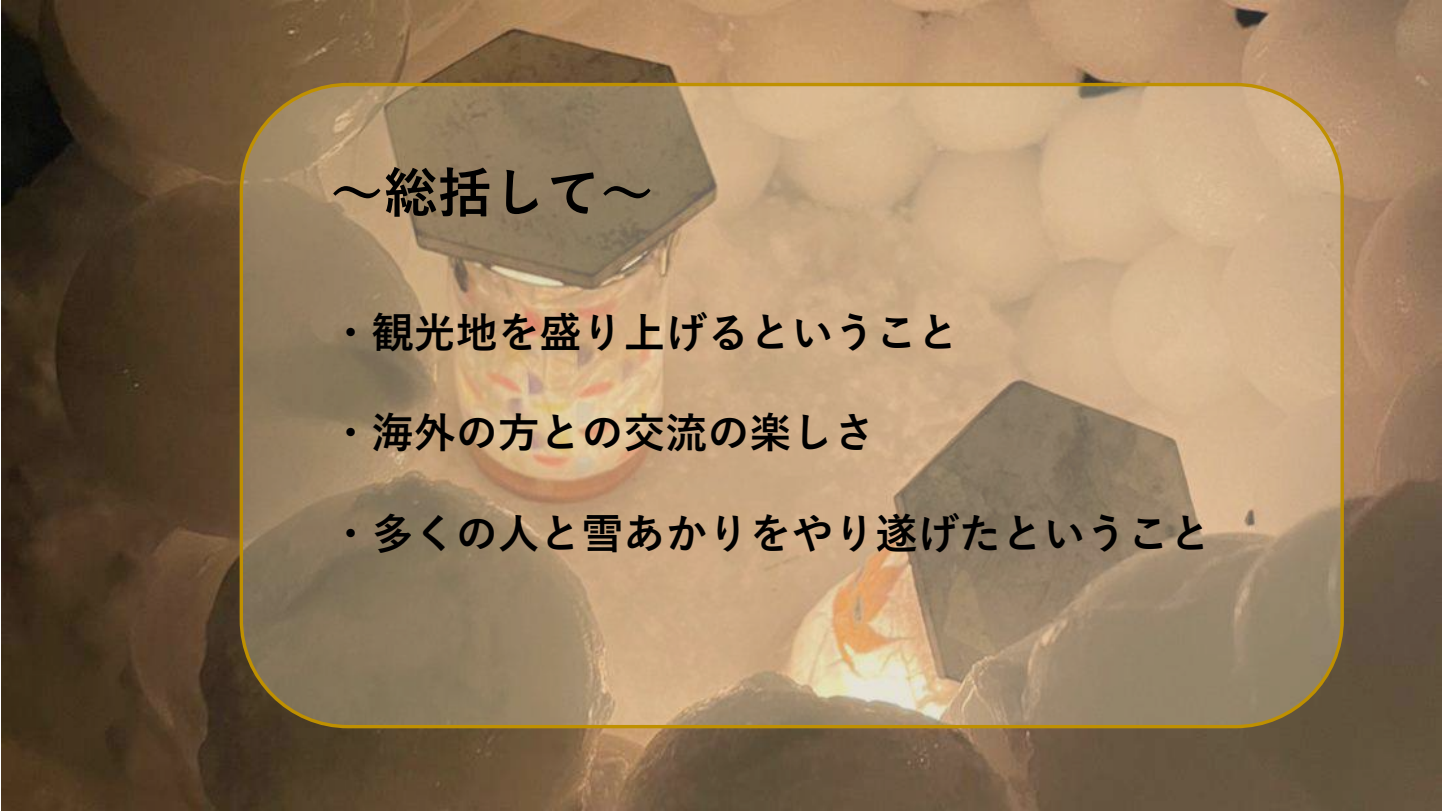


～準備期間～

- ・地道な制作活動
- ・海外ボラや地元の方とのコミュニケーション

～本祭期間～

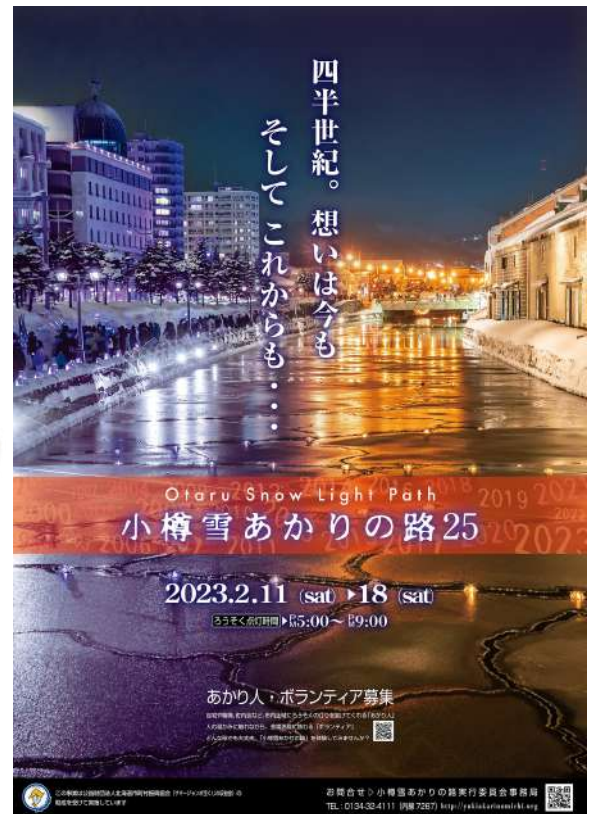
- ・制作したものの維持
- ・観光の方との関わり
- ・火の見回り、点火



～総括して～

- ・観光地を盛り上げること
- ・海外の方との交流の楽しさ
- ・多くの人と雪あかりをやり遂げたということ

小樽雪あかりの路 アフターディスカッション



雪あかりでまなんだこと

小樽が観光分野に持つポテンシャルの高さ

ボランティアさんも驚く大盛況

初日は花火大会レベルの混雑で身動きが取れないほどの混雑！

小樽のことを知り尽くす市民の皆さん

通りすがりの市民の方が、運河のあれこれや、雪あかりのことを話してくれることも。



雪あかりの未来

小樽の魅力を保ち続けることが大切

北運河では小樽のグルメに行列

連日小樽のグルメを提供する北運河の屋台に多くのお客さんが行列を作っていた

小樽の魅力を詰め合わせたお祭り

食に文化に景色に、いろいろなジャンルでの魅力があつまった雪あかりは大盛況だった。

今後も小樽が持つ魅力を失わず保ち続けることが大切。



小樽雪あかりの路の未来

2020118 幸村祐希



ボランティアを経験して

◆非常に意義を感じた

- 実際、雪あかり開催期間中のほうが観光客も増え、経済効果も期待できる
- 運河を用いた効果的なブランディング

持続的可能性について

- 大いに続ける意味があると感じた
- 札幌雪祭りを食うぐらいの規模感があってもよいと感じた
- 雪像や氷像のクオリティを上げるなど



小樽雪あかりの路事後学修

2020149 社会情報学科3年 佐藤栄作

ボランティア活動を通じて学んだことは？

開催側と参加側の距離が近い

- 準備期間中でも、運河を通る人々が気軽に話しかけてくる
- さっぽろ雪まつりと比較して、コンパクトである
- メッセージキャンドルで、参加側もより開催側に

「小樽雪あかりの路」の未来は？

開催側と参加側がより密接に創り上げるものへ

- 開催側→参加側へのアプローチ
 - オブジェ制作体験
- 参加側→開催側へのアプローチ
 - 積極的なボランティアとの交流

小樽雪あかりの路の課題について



地元市民と海外ボランティアから

構成される国際的なイベント！

だが、課題として、、、

- 小樽の地域活性化につながっているか
- 規模の縮小



- 普段関わらない人と繋がれる
- 得難い経験が出来る！



小樽雪あかり の路の未来

2020302 古川皓都



学んだこと

雪あかりへの思い

小樽市民の運河に対する思いがあふれていた。実際に体感してみてもボランティアの方の本気さや熱意が伝わってきた。

運河にあふれる可能性

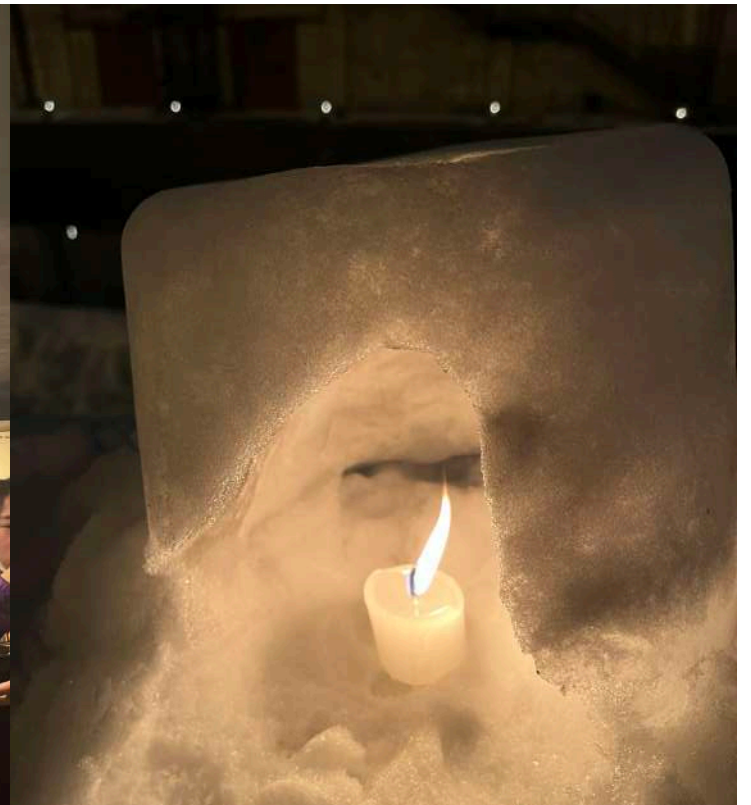
小樽の運河を活かし、夏、冬だけでなく四季折々のイベントで盛り上げることができるのではないかな。

グローバル小樽

久しぶりにインバウンドが戻ってきた。これを機にどんどん観光客を取り戻せる。韓国、台湾、中国は勿論、ヨーロッパや欧米の方ももっと増やしたい。



雪あかりに参加して学んだこと
2020317 松井綾汰



学んだこと

- ・ボランティアの楽しさ、大変さ
- ・雪あかりをを通して異文化交流
- ・観光客の多さから小樽へどれほどの関心が向けられているか



小樽雪あかりの路の未来



3年 坂本



感じたこと

- ・小樽の飲食店は北運河に固まっている
- ・観光客は海外、道外の人が多い
- ・地元民は潮祭りに毎年行きがちだが、雪あかりは繰り返して来てくれない
- ・夜開催するのに運河周辺の飲食店は閉店時間が早い
- ・営業時間が遅い花園にはあまり人が流れていない、電車で札幌へ戻る人が多いようにみえる

よりよい雪あかりを目指す

- ・滞在型のイベントにする、お客さんを帰させない仕組みづくり
- ・出店を各地に広げて花園まで誘導
- ・お客さんとも内輪的な楽しみを共有
- ・雪あかりの綺麗さで終わらせない

社会実践連携Ⅲb

小樽雪あかりの路ボランティア活動

事後学修

斉藤匠吾 2020424

私が今回の雪あかりの路ボランティア活動で学んだことは二つあります。

一つ目は異文化交流の素晴らしさです。

ボランティアには韓国と台湾の方々も参加しており、準備期間、本祭期間共に一緒に作業しました。日本国外の方々はとてゝも気さくで日本語も上手く、フレンドリーに話しかけてくれました。ボランティア後のパーティーではお酒を交えた席でより一層楽しかったです。

我々日本人は英語も喋れなければ、韓国語も台湾語も喋れないのは非常にもつたないと感じました。学校では実戦では使えない英語しか教えてくれません。意味のないものに意味を求める国民性に少し嫌気が差しました。

ともあれ、世界は広く、こんなにもフレンドリーで頭のいい人達が海の外にたくさんいると思うとやはり大学在学期間に留学しておくべきと感じました。日本にも外国人はたくさんいるのでこれからも異文化交流を深めていきたいです。

二つ目は雪あかりの路の綺麗さです。

私は初めのうちは単位のためのボランティアとは思っていません、そこまでやる気がなかったのですが、シングルにスノーキャンポル作りの楽しさにまづ虜になりました。大きなソリやバケツ、シャベル、その他扱ったことのない雪用道具は子供時代の雪遊びを彷彿とさせました。バケツに雪を入れて、すっぽり取り出すのはずつとやってみたかったことでした。しかもそれに筒で穴を開けるのでより一層楽しいです。時々ふざけてソリに乗ったりしちやったのは今のうちに皆さんに謝っておきます、ごめんなさい。

そして、本祭期間前日のボラ祭りについて点灯されたキャンポルたちは初めてみる綺麗さでした。よく自分は花火も夜景もすぐ飽きると言いますが、雪道に照らされるスノーキャンポル達は目を飽きさせず、とても綺麗でした。私はお祭りが好きなので、冬よりも夏の

方が好きです。でも冬にもこんなふうに素敵なお祭りが開催されるなら毎年参加したいと思いました。それほどこまめにスノーキャンパスが綺麗だと学びました。

以上のことより、単位抜きにしても今回のボランティア参加は私にとって非常に有意義なものとなりました。今回できた国外の友人達にも再会すべく、来年もこのイベントに参加したいと強く思いました。

このイベントの持続には我々商大生の協力が不可欠です。人数が多すぎるのも問題ですが、人手不足に陥らないためにSNSをもっと活発に稼働させるのも手なのかなと感じました。発展のためには異文化交流の機会を今よりもっと増やせたらいいなと感じました。



社会連携実践

雪あかりの路 発展的・持続的な未来

小樽商科大学 2020428 佐久間千佳

アットホームな 交流体験

多様なボランティア人材

年齢、性別、国籍を問わず様々な人がボランティアとして活動していますが、その根底には小樽ならではのアットホームさがあります

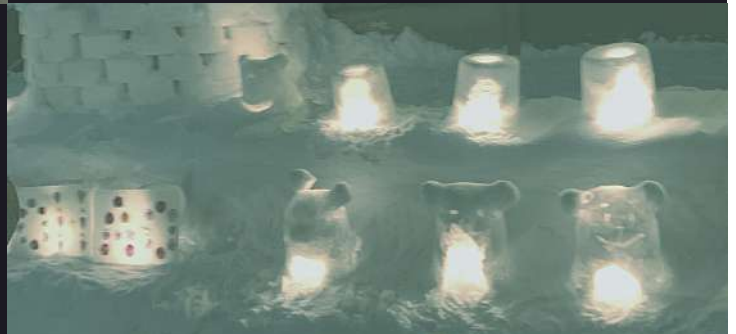


作成段階から参加型のイベントへ



ボランティア体験観光ツアー

参加型オブジェクト



小樽雪あかりの路の未来

振り返り



- 準備段階から興味をもってくださいました観光客の方が多かった
- 売店の活動を通して様々な方とコミュニケーションをとることができた
- 小樽運河のイベントに携わることができて良かった

3年 平嶋 純也

今後の雪明かり

- 運河会場に集中しがちなので、街の活性化に即つながるかという点ではなかなか難しい
 - 売店で買い物してくださったお客様にクーポン券を配布する など
- メッセージキャンドルが好評だった
 - 体験型は今後も続けていくべき
- 天候が悪いと明かりが消えることが多かったの
で、見回りが大事だと感じた



雪あかりの路ボランティア事後学習『小樽雪あかりの路の未来』

2020853 山田 あかり

本レポートでは事前学習とボランティア活動を含む本活動を通して得た知見を基に、「小樽雪あかりの路」の発展的・持続的未來について論じることとする。

「小樽雪あかりの路」で学んだこと

事前学習における視聴動画にて、小樽が観光地化するまでの概要を学んだ。私は小樽が今観光地であることに何の疑問も持たず、元から観光地であるのだという認識であったため、観光地化する以前の歴史、及び観光地化にあたって激しい論争が繰り広げられていたことを初めて知った。小樽運河の埋め立てをめぐって小樽市民が立ち上がり、街をあげて反対運動を行っていることから、小樽市民がいかにこの運河を必要としているかが伝わってきた。また、以前雪あかりの路がコロナの影響で中止になった年に、第三倉庫において灯りを打ち、第三倉庫散策の反対活動を行ったと耳にした。そのことから、小樽市民は小樽運河のみならず、建造物や資源を含めた小樽そのものを誇りに持ち、大切にしているのだらうと感じた。

続いて「小樽雪あかりの路」ボランティア活動において学んだことを述べる。

まず、海外ボランティアの勢いに驚いた。小樽のためにあんなに大勢の人が海を渡って日本に来て熱心に活動しているのを目の当たりにした。話してみるとほとんどの方が小樽を気に入ったそうで、夏祭りの時期にもまたここに来ると話していた。

以上から、小樽は小樽市民のみが魅力を知っていて、誇りに思っているだけに留まらず、新たな顧客に魅力をくまなく伝え、心をわしつかみにし、また来たいと想起させるリピーターも十分に揃えていると考える。

雪像を作るなどの活動において、野沢さんをはじめとした「雪あかりの路」の活動を担い、指揮している方々と話していて、小樽を敬愛し、この活動自体にも自信と誇りを持っているように感じた。手際やスキル、伝え方等、どれをとってもこの活動の歴史を感じる節があった。

雪を形成し、灯りを灯すということについて、雪と炎という一見相性が悪そうに見える二つをうまくい形で共存させ、灯りを絶やさないとこの姿勢について非常に魅力を感じた。やはり自然な中でスノーキャンパルが崩れたり、火が消えたりもするが、一つ一つ手作業で火を点け足したり、スノーキャンパルを作り補充したりするので、作品一つ一つに真心が込められている。



17時を過ぎたあたりから空が暗くなり始めるのだが、冬の寒空の下で灯るスノーキャンパルはどれも幻想的に輝いていた。スノーキャンパルで飾られた小樽運河を歩くお客さんたちもその光景にくぎ付けになり、写真を撮たくさん撮っていた様子だった。

「小樽雪あかりの路」の発展的・持続的未來についての考察

結論、私はこの活動は受け継ぎさえすれば途絶えないと考えている。根拠は2つある。まず、人手不足という懸念点について言及するが、人手が不足するという事態には陥りにくいと考えている。理由は、海外に向けてボランティアを募った結果あのような大勢の方々に参加していただけたことにある。あのような人数が集まった結果から、小樽及びこの活動の魅力が十分に告知できていたと推測する。その告知能力を駆使すれば日本国内からも集められるだろうし、同じく海外からも十分に人手が確保できると考えている。

次に二つ目の根拠であるが、この活動によって作り出された幻想的な美である。前述の通りこの活動によって作り出された光景は小樽運河を歩くすべての人の目を奪い、くぎ付けにしていた。その結果からこの活動及びお祭りが、コンセプト等を大幅に変えない限り廃れることはないのではないかと考えている。また、近年ではコロナにおける人員の減少も緩和されつつあり、今年はこの数年と比較し莫大な動員数を得たと感じる。この結果から多くの人々がこのお祭りに興味を示し、あるいは中止されていたこのお祭りの開催を待ち望んでいたのではないかと考える。

また、お祭りの最中に観光客等といったお客さんに紛れ込み、積極的に話しかけるということをしていったのだが、綺麗、あの屋台の食べ物がおいしいという声の中で特に目立った

が寒いという声だった。道外や国外から来訪された方も多く、寒さに慣れていない中での小樽の寒さは非常に厳しく感じたように思う。また、この寒さがお客さんの滞在時間の減少にもつながるのではないかと懸念している。

焚火に集まり心身を暖めている人を多く見かけたことから、焚火を増やす、大きくする、また事前に寒さの深刻さを訴える告知等を行うことで観光客らも事前に対策を講じ、滞在時間を延ばすことができるのではないかと考えた。



小樽雪あかり の路

2021031 伊藤星織



ボランティアに参加し

- ・多くの観光客の方とコミュニケーションをとることができた。
- ・小樽の魅力について気づくことができた。
- ・長年続けているボランティアの方々から小樽の歴史について教わることができた。
- ・他国のボランティアの方々ともたくさんお話をすることができた。

雪あかりの路が長く続くために

1

学生は積極的にボランティアに参加し、小樽の歴史を学ぶべき

2

国内だけでなく海外の方々への認知度をさらに上げる

小樽雪あかりの路に多くの方が訪れ、小樽の魅力や深い歴史の存在に気付くきっかけになるとよい。

小樽雪あかりの路の 未来について

2021083 岡嶋夕奈

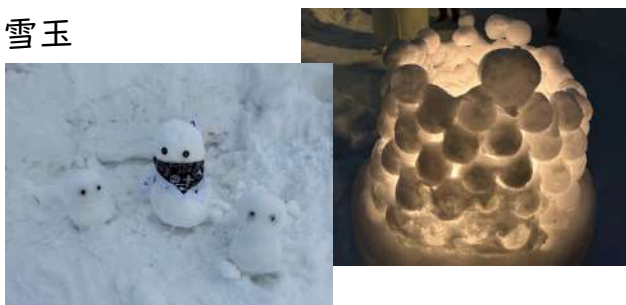
★スノーキャンドル



★ワックスボウル



★雪玉



雪あかりの路ボランティアの実情

①雪あかりの路はボランティアの存在が必要不可欠なイベント。

→イベント設立当初から参加されているボランティアの方達が先導してくださっていることで成り立っている。50年後、100年後、この人達がいなくなった時は…?

②スノーキャンドルやワックスボウルなどはレクチャーさえ受ければ簡単に製造可能。

日本人ボラ:商大生その他、小樽市在住の一般の方や小樽市内の高校生も多数。

海外ボラ:渡航できる枠数が決まっており、それよりも遥かに多い人数の応募があったそう。リピーターも多い。

→次の目標:新たなボランティアの参加者の層を獲得



- 雪あかりの路の未来

- ・海外ボランティアの募集を引き続き精力的に行うこと
- ・さっぽろ雪まつりと関係を密にして、集客層を広げること
- ・商大生に雪あかりの路ボランティアの存在を周知すること



小樽雪あかりの路の未来

経済学科 2年 桑野靖也



学んだこと

- 海外から来るボランティアの数が想像以上に多いこと。
- 雪目当てに来る観光客が一定数いる。
- 作品を壊されることがある。

小樽雪あかりの路の未来

- 小樽の雪がたくさん降る気候となんとかして残った小樽運河といった観光資源は未来でも変わらずに存在するでしょうが、現場の指揮を執る方々は高齢者が多いので、この先何十年も続けようと考えたと小樽を引っ張っていくようなより多くの若者を集めることが必要であると私は考えます。
- 今後は観光客も増えると思うので、彼らに向けた説明や注意の看板をもっと置くと観光客は分かりやすく、ボランティアは修復作業以外の仕事を行えて一石二鳥になるかと思います。

小樽 雪あかりの路

二年 社会情報学科 小森 純

ボランティア活動内容

- ・ エリア内の造成
- ・ 雪あかりの路の周知を図る
- ・ 本学学生との協力を通じた交流
- ・ 海外ボランティアとの交流

雪あかりの路のこれまでとこれから

- ・ 雪あかりのはじまり
- ・ コロナ渦からの回復
- ・ 雪あかりが貢献する小樽観光
- ・ 小樽市内全域での取り組み

雪あかりの路の未来



今のままでとても美しいイベントではありますが、今後さらに良くしていくには、準備段階の除雪の作業やロウソクなどの修復作業を迅速に行う必要があると考える。そのためには、もっと人員が必要だと感じた。



小樽雪あかりの路



2021312 林芽依花

寒かったりと大変なこともあったけど、準備期間から交流会などで海外ボランティアの人たちとお話しして仲良くなれて嬉しかったです。



本祭期間 たくさんの観光客の方が海外など色々なところから小樽に足を運んでくれました！
写真をお願いされたり、話しかけられたりして嬉しかったです。
キャンドルの修復だけでなく、屋台などで販売をできたのでよりたくさんの色々な人を話せました！



活動を通して学んだこと・考えたこと



❄️ 個人の活動

- 他者との互助関係
→ 咄嗟にアクションを起こせるように
- 参加者への奉仕精神
→ 楽しく見てもらえるための工夫

❄️ 活動全体において

- 横/縦のコミュニケーション
→ 共通の目標の下協力し合う
- 小樽の**景観** × **雪** × **明かり**
→ 観光都市小樽を取り戻す機会に

2023/2/21

社会連携実践Ⅲ 事後報告スライド



活動全体における改善点

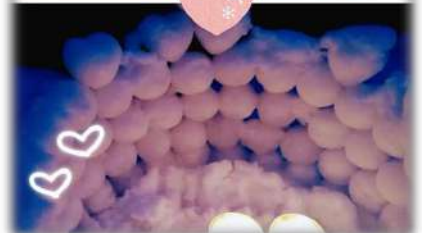
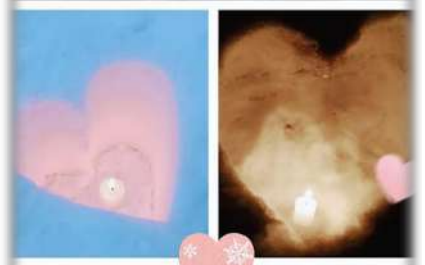


❄️ 個人の活動

- 連絡への反応が遅い
→ **通知on + イヤホンの活用**
- 体力のコントロールが出来ず
→ **時間や担当区画を区切り休憩する**

❄️ 活動全体において

- 作業の流れが不透明
→ **作業内容に関する事前学習を行う**
- 狭い通路による移動のし辛さ
→ **除雪での通路確保・オブジェの位置整理**



2023/2/21

社会連携実践Ⅲ 事後報告スライド



イベントの持続的・発展的未來について

❄️ 個人の活動

年度を跨いだボランティア参加の輪を広げることにより、
商大生の認知と協力を増やす

❄️ 活動全体において

“雪明かりの路”を、国内外問わず観光客が戻りつつある
小樽の冬の代名詞にする

2023/2/21

社会連携実践Ⅲ 事後報告スライド

小樽雪あかりの路の未来

2年 山田優心



雪あかりを通して学んだこと

- ・ 様々な人と関わることの重要性

ボランティアの方々や違う国の方と交流する機会が多くあり、たくさんのお話を聞くことができとても面白く感じました。これまで知らなかったことを知ることができて自分の世界が広がり、これからはもっと様々なことに興味を持って生きていきたいと思いました。今回のボランティアに参加しなければかわることができなかった人たちと交流することができてとても貴重な体験ができました。

- ・ 「小樽雪あかりの路」という伝統

実際にボランティアとしてかわることによって知らなかった小樽の一面を知ることができました。私はこれまで雪あかりの路の存在を知らなかったが、多くの観光客でにぎわっている様子や自分たちが作ったキャンドルに明かりが灯って綺麗になった景色を見てやりがいを感じました。また毎年参加しているボランティアの方々からのお話などを聞き、昔から毎年つながれてきた雪あかりの景色はとても素晴らしいものだと思います。

小樽雪あかりの路の未来

雪あかりの路に実際にボランティアとして参加してみて気づいたことは、お客さんには観光客がとても多いということでした。出店などで接客をしていると、カタコトでも一生懸命話してくれている海外のお客さんを見てこちら側にも韓国語や中国語、英語などが話せるボランティアがもっと増えればコミュニケーションがとりやすくなり、より観光客が来てくれるようになり、雪あかりの路がさらにはにぎやかになっていくのではないかと感じました。

「小樽雪あかりの路 の未来」

2年 木内建介



学んだこと

- ・ 小樽という街の素晴らしさ
- ・ ボランティアの楽しさ





雪あかりの路の未来

小樽雪あかりの路の未来



ボランティアを通して学んだこと

- 小樽運河や小樽雪あかりの路が伝統的なものであること
- 小樽運河などの観光資源は小樽市民の方々の努力や強い思いによって守られてきたこと
- 小樽市は人と人との繋がりが強いということ
- 小樽雪あかりの路は広い範囲で人と人との繋がりを強めるイベントであるということ
- 小樽市が一丸となって取り組んでいること
- 異なる言語を話す人々と交流することの重要性

小樽雪あかりの路の持続的未來

小樽雪あかりの路は小樽市の観光資源を活かして、多くの観光客を呼び込める機会であり、普段関わらない人と交流を持てる機会

雪あかりをこの先も続けていくには、小樽市民の方々の思いや伝統を継承していく必要がある



幅広い地域や年齢層の人がイベントに関われる取り組みを続けていく



小樽雪あかりの路の未来について

二つの関わりと、学んだこと



人との関わり

地元の人、海外ボランティア、
観光客



地域との関わり

小樽の歴史、小樽への愛着

小樽ならではの良さを象徴
多くの人によって成り立っているイベント



- ・発信方法について

→ 各種SNSの運営、ホームページの改良
行政と企業が一体となった発信



- ・高齢化社会への対応

→ 若手への周知
継続的なボランティア活動の参加

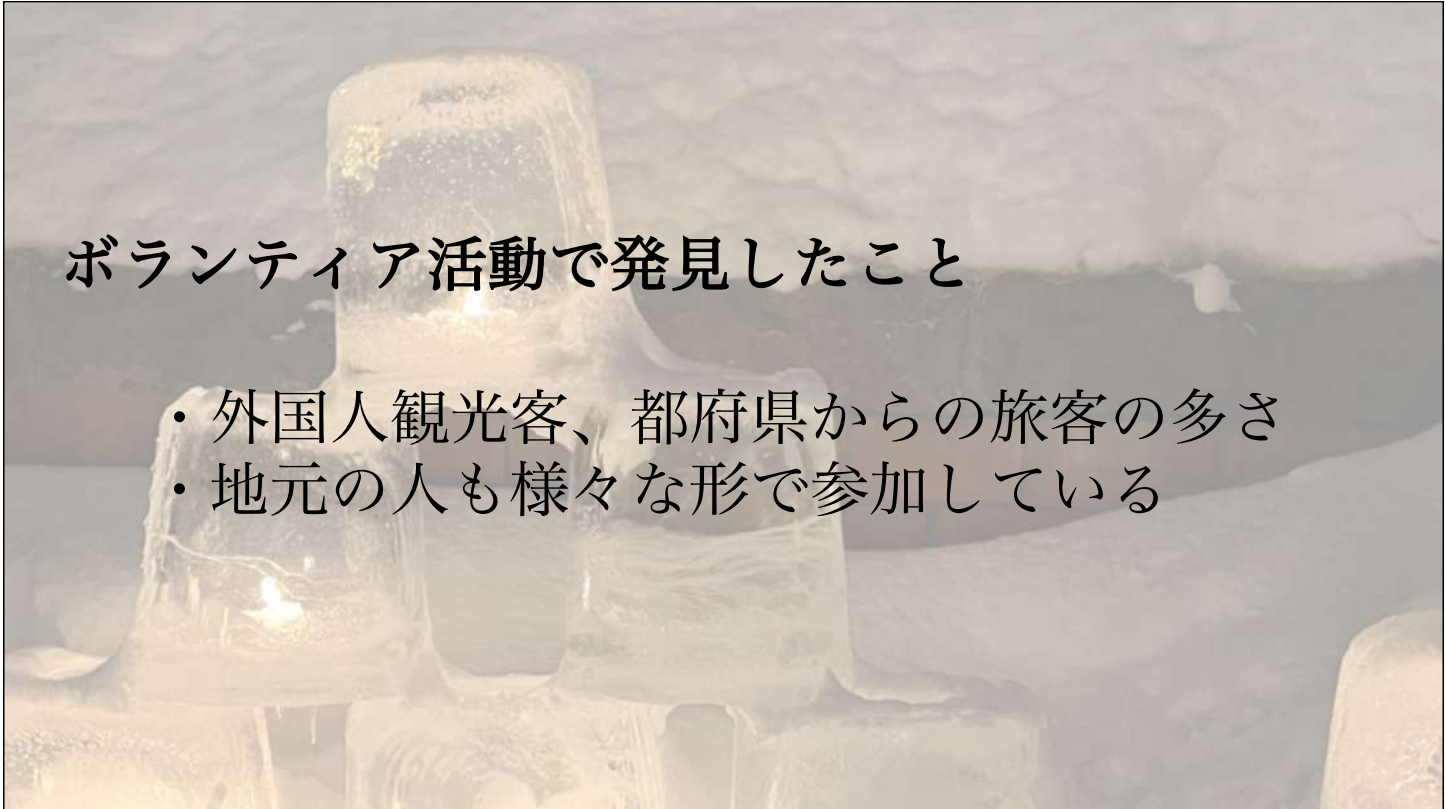
今後の課題

小樽雪あかりの路の発展的未来について

小樽雪あかりの路の未来

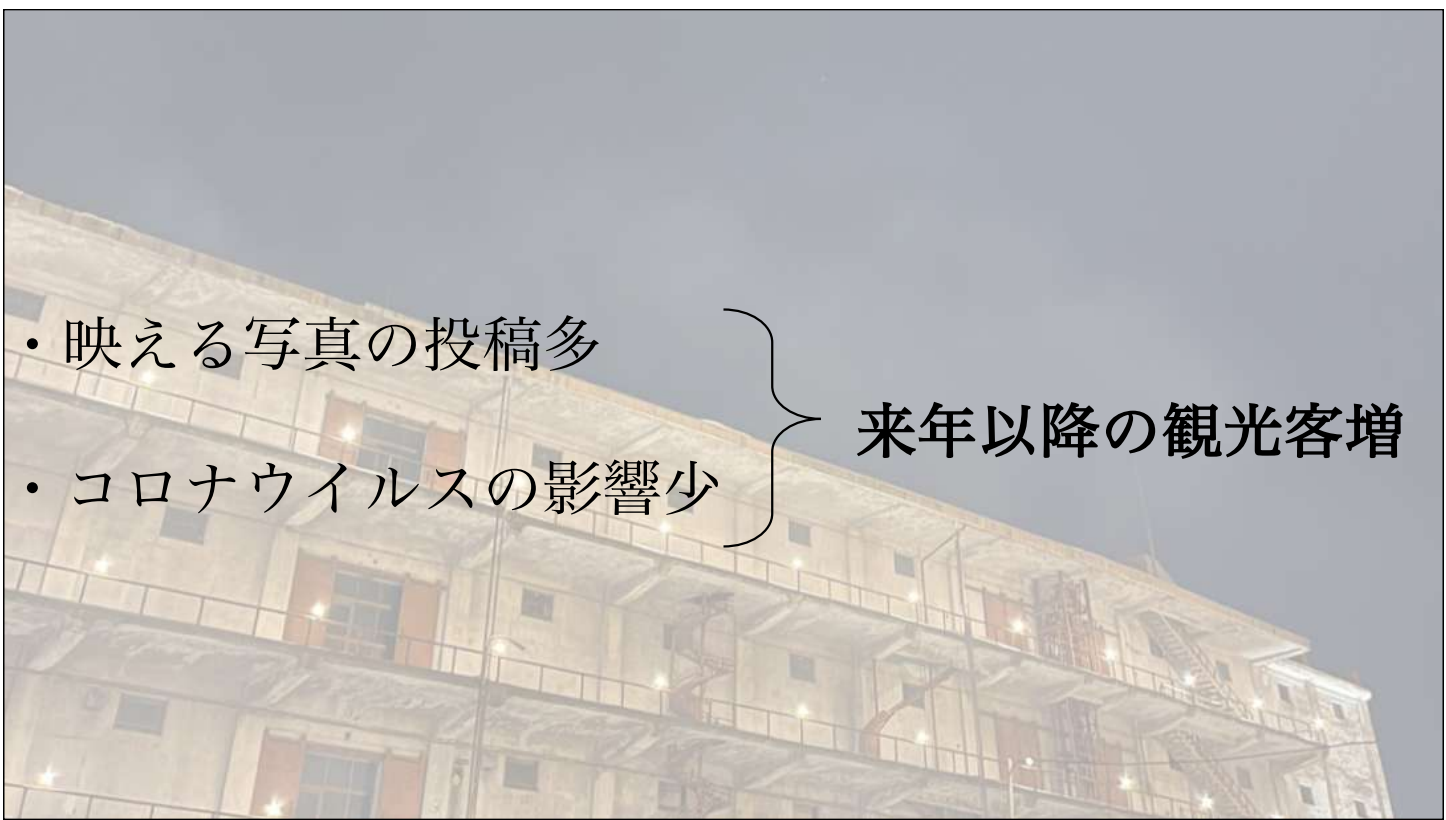
学籍番号:2021833 氏名:竹谷美優





ボランティア活動で発見したこと

- ・外国人観光客、都府県からの旅客の多さ
- ・地元の人も様々な形で参加している

- 
- ・映える写真の投稿多
 - ・コロナウイルスの影響少

来年以降の観光客増

「小樽雪あかりの路の未来」

2年 吉田百音

今回初めて小樽に関わるボランティアに参加し、たくさんの人との交流や、小樽の歴史について触れることが出来た。事前学習を通して、小樽運河保存の歴史について学び、保存賛成派と反対派のそれぞれに、小樽を大切にしているからこそその理由を知り小樽を守るための行動であることを知ることができた。

雪あかりの路準備期間では、地元の方に教わりながらオブジェの作成をした。作り方にもそれぞれ工夫があり長年行ってきて改良などを加えてきて今の作り方にたどり着いたことを感じた。また、準備期間内で韓国や台湾のボランティアの方々との交流もすることができた。普段外国人と交流する機会がないため、貴重な体験をすることができた。本祭期間では、たくさんのお客様があり、このイベントがこんなに盛り上がると思っていたため驚いた。たくさんの方々スノーキャンドルに参加していただき、それぞれ思いを込めたメッセージなどを書いてくれた。観光客の方も多く、わざわざ足を運んでくださってありがたいと感じた。今後も、小樽についての歴史などが若者に受け継がれ、このようなイベントが続いていき小樽の伝統は受け継がれていくのではないだろうか。





成果と改善点

• 成果

- 意義深いイベントへの従事
- コミュニケーション！



• 改善点

- 来場者数 2020年の約8割
(2020年は約31万5200人)
- 運河会場Aに人が密集



まとめ

・来場者数

2019年 47万8000人

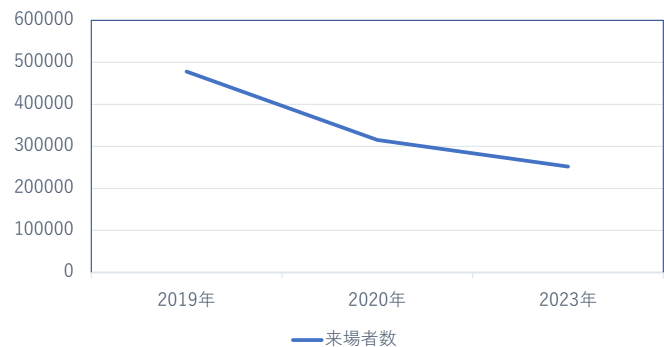
2020年 31万5200人

2023年 25万2000人



もっと多くの人に「想い」を広げるには？

「小樽雪あかりの路」来場者数推移



- ・新設の北運河エリア
- ・小樽全体が会場
- ・日本人来場者が少ない（？）

→ **国内外への「小樽雪あかりの路」の魅力発信**

(参考) 読売新聞社, 2023, 『「雪あかりの路」に25万人』, 『朝日新聞』2023年2月21日, 朝刊, 25項
小樽ジャーナル, 2020, 「第22回小樽雪あかりの路 来場者315,200人に激減」
(<https://www.otaru-journal.com/2020/02/post-59635/>, 2023年2月21日取得)

雪あかりの路

これからの未来

メッセージキャンドルの 人気がすごかった

安価かつ写真映えがするのが一つの理由だと考える



メッセージキャンドル売り場
を増設、その莫大な利益に
よって会場を拡大。

第100回までには小樽駅から
運河までが会場になる

小樽雪あかりの路の未来

2022096 加藤璃々

● 事前学習の内容から

以前

小樽運河に関して

荒れて汚れていた

運河を埋め立てて道路を建築する案が発表

埋め立て反対市民運動

運河の半分が埋め立てられた

現在

運河は小樽の資源である

● ボランティア活動を通して

海外からの観光客が想像以上に多かった。
ボランティア時間内で栄町周辺を散策する機会があり、
私自身も小樽を楽しむことができた。



● 小樽雪あかりの路の発展的、持続的未來

外部からの観光客が多い一方、地元の方はあまりイベントに足を運んでいないような印象を受けた。

運河沿い以外でもスノーキャンドルや雪像をちらほら見かけたので、それがもっと増えたら、地元の方も楽しみやすいイベントになるのではないか。

今回の雪あかりの路ボランティアに参加し、
学んだことについて

発展的未來のための提案

- 案1：小樽駅から運河までの間をもっと盛り上げる
 - 案2：「おたべるトクトクきっぷ」の宣伝の拡充
-
- 案1について、個人的な感想として小樽駅から運河会場までの道が寂しいと感じました。また、運河会場は遠いという意見も聞かれました。
 - 案2について、浅草橋の売店にシフトで入っていたときに「おたべるトクトクきっぷ」の認知が非常に低いことに気がつきました。また、販売箇所も少ないことは問題ではないかと感じました。



学んだこと

人とのつながり



発展的・持続的未來について



サンプル フォッター テキスト

小樽雪あかりの道 ボランティア

1年 学籍番号 2022176 志賀 鈴

学んだこと

• 1. ボランティア精神

雪あかりに参加したボランティアの方々は寒い中、一生懸命物を作ったり、お互いに気にかけていながら来てくれた観光客の方々に喜ばせようとしていた。特に、何年もボランティアに参加している方々はもって、雪あかりというイベントはボランティアなしでは成り立たないイベントだと感じた。

• 2. 異文化交流

日本語を学んでいる台湾、韓国の学生たちと友達になることができた。国、文化は違うがたくさん話しかけてくれたり、一緒に活動したりと交友関係が広まり、新たに視野が広がった。朝から夜遅くまで頑張っていて、私もやりたいことをしっかりやっっていこうと思った。



今後

新型コロナウイルスが収束するのに伴って、これからも韓国、台湾はもちろん異文化交流はもっと進み、参加する日本のボランティアの方々とのつながりが広がっていくと同時に、“日本のボランティア精神”というのが世界に多く広まっていくのではないかと考える。また、小樽の歴史、魅力というのをも伝えるきっかけになっていくと考える。参加したボランティアさんの温かみに触れ、雪あかりも広く浸透し、もっと大きなイベントとして、知名度を上げると思った。ボランティアのイメージがいい意味でこわすことができたと感じる。ただ観光客の方々に見せるだけではなく、お互いも気にしあいながら一つのものを作り上げる、ということに身染みて感じた。今後は場所を増やしたりすることで、新たな小樽の一面を見せていけるのではないかと考える。例えば、海の近くでも活動範囲を増やし、もっと魅力を発信していけると考える。



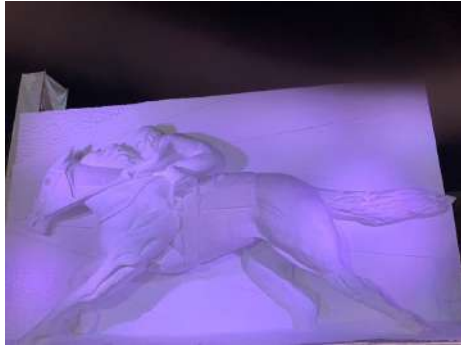
小樽雪あかりの路事後学習 「小樽雪あかりの路の未来」

1年 柴田あかり

さっぽろ雪まつりとの比較

さっぽろ雪まつり

- ・予算が多いため、規模も大きい
- ・自衛隊や企業が参加するなど、盛大に開催



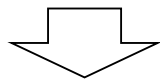
小樽雪あかりの路

- ・予算が少ないため、規模が小さい
- ・地元の人、ボランティアの協力が不可欠



小樽雪あかりの路の未来

魅力の1つである、
「独自のあたたかさ」を
継承していく



問題: 地元・運営の高齢化
→若手(商大生ボランティア等)
の積極的な参加





雪あかりの路を終えて

小樽商科大学1年 村瀬翔汰



感想

- ・ 普段話す機会の少ない小樽の方々と交流することができた
- ・ 台湾や韓国から来ていただいたボランティアの方と協力して運河のスノードーム作成を行うことができた

次回に向けた改善点

- ・天候によって来場者数が左右されるため、天候が悪い中でも雪あかりの路会場に快適にいていただけるような雪を避けるテント、暖を取れる場所を増やす
- ・水に着色して色付きのスノーキャンドルを作るといような、スノーキャンドルに工夫を加えることで煌びやかにする
- ・運河は狭く、多くの人が行くとせっかくのスノーキャンドルが見にくいので、手宮線であったり、その近辺にも雪像やキャンドルの設置をたくさん行うことで観光客が広い範囲で小樽を楽しんでもらうようにする。

2/22/23



・ 私が小樽雪あかりの路から学んだこと

自身がイベントの当事者になれるような
コンテンツ（キャンドル販売）は観光客に人気である



インスタグラム等のSNSの自身が雪あかりに
参加したという投稿に載せる写真が撮りやすい



浅草橋付近の雪山




浅草橋でのメッセージキャンドル販売の様子

・ 雪あかりの路の発展的・持続的未来

SNS投稿のしやすい**参加型のコンテンツ**を今以上に増加させ、
今まで以上に**SNS映え**する小樽雪あかりの路にする

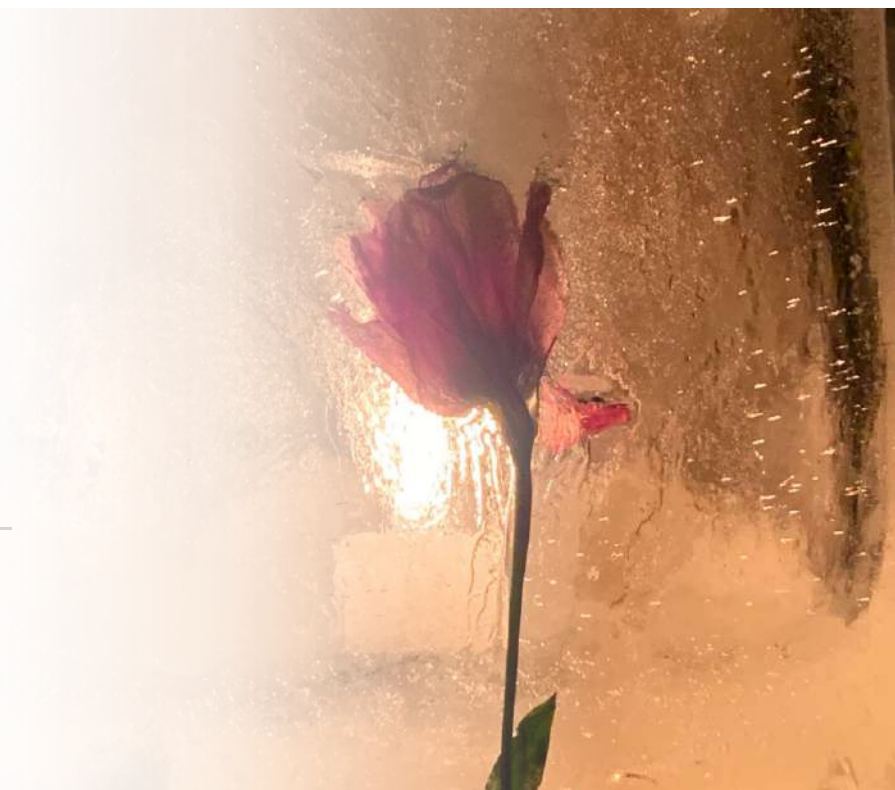
運営→来訪者への一方通行ではなく、
来訪者を巻き込んだ
「**みんなで作る**」雪あかりの路にしていく

ご清聴いただき
ありがとうございました



「小樽雪あかりの路」の発展的・持続的 未来について

小樽商科大学1年
学籍番号 2022806
歌原 依音



運河の形の変化

保存運動が行われたが、運河の半分のみを
保存するという折衷案で決着が図られた。



現在では、観光資源に

**「小樽雪あかりの路」はその運
河の目玉イベント！！**





良い点

- ・とてもきれいにライトアップされた運河を見ることができる。
- ・ボランティアに参加すれば、色々な国の人々と交流できる。

改善点

- ・天候に左右されてしまう
→天候に左右されないオブジェを増やすべき
- ・どこでやっているかわかりにくい
→それぞれの会場の上に絶え間が無いように明かりを設置すべき